



# 2月号 こびとのおうちえんが Letter

あなたがだった1月。おととで、ネッ  
 ウォーマーをつくる時間は、モチモチだった。  
 あいかわ山にもどんどん入っていき、新しい場所や道は開けるされて  
 し、山の中でずきずきと歩いた。まだまだ、満ちたよう。そして、そのおと  
 しとやそこらにいて自然の感覚がよ。しみこみ、しみこみ-と思う。  
 こども同士でのシーンが、ふいにこの時期。長なやまを歩かせながら、まゆや  
 梅の木の下にいたりすたりする(もも)と(さくら)が見える。何してる  
 がわからな  
 いけど、なんだかしあわせそう。おとから(さくら)に  
 きいて「あー、イノシシころこしたんよ」そうだった  
 けど、そんなこどもじからもたつたりと。

モ、チ、ン、ス、ク、ウ、  
より

私には高専生、高校生、中学生、それから4人の子供がいる。高校生以上になると、親の出番はほとんどない。毎日お弁当を作ってやるだけ。ただ、中学生まではやはり、学校の様子も気になるし、学校や部活の成績に行く機会も多い。時々、ママ友同士で話したりすると、皆さんまあまあストレスを抱えていると感じる。部活でレギュラーの決め方がおかしい、子どもが先生にこんなことを言われて納得できない...など。  
 大抵の場合、ママ友内でおしゃべりすれば、気持ちも少し晴れて、気分が良くなる人が多いみたい(私も含め)。それもいいと思う。でも、とても怒っているみたいだから、「先生に話してみたら?」と言うと、みんな「でしね〜」と黙ってしまう。なぜだろう。相手を傷つけないという思いやりのあるだろうし、自分が嫌われたいくないという気持ちもあるだろう。でもやはり私は、多くの方が、自分の本当の気持ちを話す、直接伝えるということが苦手になっていると感じる。スマホ、LINEなど顔なしのコミュニケーションの普及がそのような状況を作ってしまったというのには、よく言われているとおりだと思う。

おうちえん。子どもたちがなにか言いたそうにしてるとする。昔の私は、その子が言いたいことを察してこちらから声をかけ「こうしたいんだね」と素早く対応してあげるのが、大人の役割りだと思っていた。でも今はなるべく待つみたい。その子が自分で言い出せるような言葉がけを心がけている。子どもたちが、「寒いよ〜」ではなく、「寒いから窓締めてくれる?」であったり、「あ〜手が届かないよ〜」ではなく、「手が届かないから、手伝ってくれる?」と伝えるようにしていきたいと思う。こういうシチュエーションの積み重ねが、もう少し大きくなった時の(本当にめんどくさい)中高生時代を生き抜くことに、また大人になっても周りに(あまり)巻き込まれず自分らしく過ごすことにつながるだろうと思う。そして子どもだけでなく、まず自分が、自分を感じ伝えるということをシンプルにできる人でありたいと思う。  
 大下 里香

おたんじょうびおめでとう!  
 10日 せきりょうすけくん  
 (6さい)

- 1月はこんなことしました。長なわ8の字とび
- 大野10番宮に初もうで
  - ゆきいも
  - 竹(ま)つくり
  - たこめし作り
  - 大王様の木の周りへあそび
  - 里いも作り
  - ほこらコースへたむけ
  - フキトウさかし
  - 白菜のつけもの作り
  - ネッウォーマー作り
  - そり作り
  - ウサギの便の染めもの
  - 宝さがし
  - どんどこぎのテビロ作り

## 2月のお母さんグループ

13日(水) 13:00~15:00  
 場所: 大野地区老人作業所  
 内容: ファーリンググループ (自分をゆっぴり感じる時間) (まもちをきま合う時間)

\*参加される方は、ご連絡下さい。当日もOKです。

「親子でおうちえんの日」は、3/23(土)に延期になりました。(内容・時間・持ち物の等は、おしらせしてある通りです。1月号シスターにてご連絡下さい。今度は晴れますように!!

## ★2月のスタック70ラン★

- 山であそぼう
  - たこめしあそぼう
- 15日(金) おにぎり作り... 空のおべんとうはこを  
 21日(木) おべんとうのひ... おべんとうあねがいます

の様子をお知らせします。

うぐいすの丘の近くだ。てんが  
 即興で歌い出した。タイトルは、「あたしのくさる」  
 たんて、キャッチーな曲。これ、じつはうた  
 だらだらしい。ぶっくも、うかすも聞け  
 うらやましい! 私もここにいたかた。(1/22)

てんが、「おとどらうがにいこ」という。(お)てん  
 (お)とどらうがにいこ。ちこう走っていき、だのちびち  
 んのうちについて。しばし、ちびちんとあそび。  
 それから下の方にありていき。前にありてあそ  
 びたね... の川。(お)が「お、お、お」とい  
 て、みんなも鬼かたてありていき。(お)が、「あ  
 へ」を流し出す。みんな、あそびはじめた。  
 (お)が「まだしにた-3あ、あ」とくをぬぐ。  
 そして川へ。つめたいうらや。つめたいは  
 ども、すじたのしろう。みんなも次々、ハダシに  
 びつて入る。(お)が、「てんまうなまき」とう!

お母さんグループ。わかる TIME のなかで。  
 お母さんの中から「おうちえん。こどもたちにもやっ  
 てほしいことは何か?」とたずねられて、わかるは、  
 「自分の身のたけを知らず」とか「火をつけておこす  
 こと。(火をつけておこすようにおこすこと)」とこたえたそう。  
 なんてこたえますか? と問われて、あがとすに思  
 いかんたごのは、  
 ・どろんとあそび(たむけグループ)  
 ・いかにたす  
 ・もぐり  
 ・全カであそびこむ (実感)  
 ・人をおとめる  
 ・できない、たすけてと 言う  
 ・人とぶつかる  
 ・まっすぐにはまもちを伝える  
 ・きく  
 など たった  
 それも、ここにいて聞くとど「まらあ、ううこの先も  
 おま合ていこと含めなあと思つたし、私自身も、  
 今、どうた」と問う直すワードたちだし、それをあつため  
 にはここで聞いたたり安心したりする関係にたすよ  
 うた日々を二つ二つと作っていくことだと思つた。(1/16)

→といて、川の中の糸細長いのは、おをあつめ出す  
 (お)あじが、軽やかだ。そのムードをいせの子か  
 かんじとて、とて和やかだ。たのしい時間だ。(1/24)

(お)「わかることとちあそびん?」  
 (お)「あらんことないよ。」  
 (お)「(お)は、あそび。」  
 「あのお、おはあそびんが2人。」  
 「あとお、おはあそびんのとちあそび。」

おと(お)と(お)と(お)とあそび。たこめし寄り  
 道していき。フキトウさかし、草の上で体そう  
 したり、ねころがったり。フキトウさかし、もうなかつた。  
 ここで、(お)と(お)の行きたい方向がわかれて  
 「あ、どうする?」となる。  
 (お)が行きたい先を、は、お主張。  
 いせなら「いいよ」と言つた(お)が、  
 「まず、いい木に行きたい。かたりに(お)の行  
 きたいところを通らう。」と  
 お、たんだかうれしい展開。  
 (お)の「こうしたい。」が、ちゃんと伝わる。  
 てん、かあおは、「イヤ」  
 どうなる??  
 すると、(お)は、別の新しい案を考へて、  
 「じゃあ、前、わかると光るおまつけた方にいって、  
 (お)「イヤ」 せうは... ね...  
 たすけ。それから、「いい木に行つて、こちにも  
 ぶつかるのもいい。」  
 たんとお、ぶしき「だけ」。話していきうちに、そん  
 なかんじで、言葉がまとまる。  
 結果、(お)の行きたいも(お)の行きた  
 いも、たつた。  
 ことわりなく人に合わせらあそび、一つの大切  
 な長所といえるけれど、こうして、自分の意見を  
 出し合えること。また、(お)は成長  
 しているなあと思つた。(1/22)

想像の上をいこたえ...と(お)。(1/31)  
 おと(お)と(お)とあそび。おと(お)と(お)とあそび。  
 ~日々のあれこれ~